

「クリーニングドクターの豆知識」その2

衣類のカビの生やし方教えます！ (なぜカビは生える?)

前回はウールの縮ませ方をご紹介しました。これから梅雨を迎えます。今回はカビの生やし方(笑)をご紹介しましょう。結論から言うとカビは「湿気」「暗さ」「栄養」の3つの条件が揃えば発生します。要はこれらの条件を作らないようにすればいいのです。普段の手入れで大事な服を守りましょう。

① 湿気

乾いたところにカビは生えませんが、では湿気を追い払うにはどうすれば良いのでしょうか？

- 晴れた日は窓を開けタンスの扉も開ける。
- 湿度の高い時期はタンスの中に「湿気取り」を入れる。タンスを置く部屋・場所を考える。
- 冬の乾燥した時期には虫干しをする。特に正絹の和服はこれをやらないとダメになります。
- 脱いだ服はすぐにタンスに入れず、一晩ハンガーにかけてからにする。湿気をタンスに持ち込まない。
- それと当店ではかねてからずっと言い続けていますが、クリーニングのビニールは必ず外すことです。あれはあくまでも店から家までのホコリ除け・雨除けです。ビニールをかけて収納すると、通気が妨げられてせっかくクリーニングしたのにカビの原因になりかねません。ホコリが気になる方は通気性のある「和紙カバー」を販売しています。
- 新築の鉄筋コンクリート家屋でよくあるのが、引っ越してきたとたんカビが生えることです。これはまだコンクリートの水分が完全に抜けていないからです。新築マンションなどは充分気をつけてください。

② 暗さ

植物と違い、明るいところにカビは生えませんが、カビは光を嫌います。だからと言って窓際の光の当たるところに服を吊るせば、ほとんどの場合日焼けをします。実は蛍光灯の光でも日焼けは発生します。服は薄暗い場所に置くべきです。暗い場所でも「湿気」と「栄養」を排除すれば通常カビが生える事はありません。3つの条件が揃わないようにするのが大事なのです。

③ 栄養

暗くて湿度のある場所でも、例えばプラスチックや金属にカビが生える事はありません。なぜならプラスチックにはカビの胞子が付着しても、成長するための栄養がないからです。

- 衣類の場合だと、汗・皮脂・食べこぼし等がカビの栄養だということはすぐわかりますね。そしてこれらは当然、あのやっかいな「シミ」の原因にもなりますし、虫も汚れた部分から先に食べていくものです。虫たちにしてみれば、食べ物の上にソースがかかっているような状態ですから。
- となるとやることは1つ。「汚れたら洗う」それ以外にはありません。当然汚れたまま次のシーズンまで放置するのは避けましょう。
- ただ問題となるのが、ウール・シルク・皮・といった動物系の繊維は、繊維そのものがカビの栄養になりえるということです。特に革製品はその特性上、カビが生えやすいものです。なので、場合によってはきちんと洗った(クリーニングした)品物でも、湿度のある場所ではカビが生じることがあります。

当店がお手伝いできること

- ◎ウールや化繊に発生したカビは、クリーニングで落ちやすい部類に入ります。カビた礼服はよくお預かりしますが、ほぼ100%きれいになります。ドライクリーニングと水洗い、両方やると完璧です。
- ◎綿の場合は少々やっかいです。表面のカビは取れても、繊維に入り込んだカビの「根っこ」が黒っぽく残る事があります。その場合はシミヌキが必要になります。
- ◎シルク(特に和服)にカビが生えると、点々と黄ばみ(変色)が生じます。これはほとんど取れません。